

授業科目名： 日本史概論Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林 克 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本の歴史が明らかにされた背景には古文書史料、考古資料、他の存在があることを学ぶ。日本の歴史が東アジア史と連動していることを知り、中世初等までの日本史の流れを理解する。その上で、歴史は「暗記」するものではなく、「考える」ものであることを理解する。				
授業の概要 最初に、教科書に記載された日本の歴史がどのような史料の調査、研究に分かってきたのかを知る。日本の歴史の大きな流れと時代区分を理解し、原始・古代から中世初等までの日本史について学ぶ。具体的には各時代の概要を確認した上で、様々な視点からの個別的事例を取り上げ、歴史の調査・研究事例を具体的に示す。				
授業計画				
第1回：ガイダンス。授業の進め方と評価方法等の説明。日本史はいつからどのように研究され、教科書の記述がなされているのかについて。				
第2回：日本史研究の方法。時代区分の意味と世界史研究との関係について。東アジアの歴史と日本の歴史の連動について。研究の根拠となる文献史料や考古資料、絵画資料、建築史料等について。				
第3回：原始(1)。旧石器時代 世界の人類の移動と日本列島到達。石器文化の変遷。旧石器時代の遺跡からみた人々の暮らし。				
第4回：原始(2)。縄文時代 気候変動と土器作りの開始。土器研究から分かった時期区分の意味。三内丸山遺跡にみる特徴的な縄文時代の暮らし。				
第5回：原始(3)。弥生文化の広がりや稲作。縄文時代晩期の様相と弥生時代の始まり。横浜で見つかった弥生時代の集落				
第6回：原始(4)。弥生～古墳時代 国の成立と墳丘墓、そして古墳へ。卑弥呼と邪馬台国はどこに				
第7回：原始(5)。前方後円墳と大和朝廷。古墳時代と古墳と技術の伝来				
第8回：古代(1)。飛鳥時代の日本と朝鮮半島、東アジア。中大兄皇子の活躍、そして壬申の乱				
第9回：古代(2)。奈良時代の政治と文化。遣隋使と遣唐使				
第10回：古代(3)。聖武天皇と光明皇后。仏教の拡大と正倉院				
第11回：古代(4)。平安時代。貴族の政治と文化。菅原道真と陰陽師。				
第12回：古代(5)。発掘調査からわかった奈良・平安時代における関東での人々の生活と文化				
第13回：古代(6)。荘園と武士の発生と台頭。平将門の乱。平安時代末期の戦乱				
第14回：古代(6)。平安時代末期の戦乱。平清盛と源頼朝。				
第15回：原始・古代全体の纏め。定期試験。				
テキスト:1冊の本に沿った講義ではなく、テキストはないが、参考書のいずれかを入手して欲しい。				
参考書・参考資料等 『大学でまなぶ日本の歴史』木村茂光ほか編著 吉川弘文館,2016 『新もういちど読む山川日本史』五味文彦, 鳥海靖編著,山川出版社,2017				
学生に対する評価 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%				

授業科目名： 日本史概論Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林 克 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本史の歴史が明らかにされた背景には古文書史料他が存在することを知り、日本史の流れを理解する。その上で、歴史は「暗記」ではなく「考える」ものであることを、何回か議論することを通じ体験的に学ぶ。				
授業の概要 具体的な史料の調査、研究によって分かってきた日本史の大きな流れと時代区分を理解し、中世から現代までの日本史について学ぶ。具体的には各時代の概要を確認した上で、当時活躍した人物を取り上げるなど様々な視点からの個別的事例を取り上げる。歴史の調査・研究事例を具体的に示し、何回かはそれらを基に学生同士で意見を述べて議論する。				
授業計画				
第1回：ガイダンス。授業の進め方と評価方法等の説明。地域史と日本史の関係性について。日本史研究の方法。時代区分の意味と世界史研究との関係について。東アジア、世界の歴史と日本の歴史の連動について。研究の根拠となる文献史料や考古資料、絵画資料、建築史料等について。				
第2回：鎌倉幕府の成立と政治体制。北条泰時と承久の乱				
第3回：蒙古襲来と当時の東アジア。海底発掘で明らかになった事実と「蒙古襲来絵詞」成立の背景				
第4回：室町幕府の成立と南北朝の動乱 不屈の後醍醐天皇				
第5回：日明貿易と倭寇。足利義満				
第6回：室町時代 伊勢と品川の関係と関東地方の武士たちの争い 太田道灌の活躍				
第7回：戦国時代 織田信長の天下統一と安土城。日本とヨーロッパの出会い				
第8回：江戸時代 徳川家康とキリスト教。江戸時代における海外との交流				
第9回：江戸と大阪。商品流通の発達。都市の生活文化の様子。				
第10回：幕末の動乱と各藩の対応。明治維新。				
第11回：日清・日露戦争と東アジア情勢 台湾、朝鮮半島の領有				
第12回：第1次世界大戦から第2次世界大戦へ 関東大震災の衝撃、そして大東京の成立から戦時体制へ。				
第13回：連合国による日本占領と朝鮮戦争。中華人民共和国の成立。				
第14回：サンフランシスコ講和条約から独立回復。高度成長と生活革命。その光と影。冷戦終結と日本経済。				
第15回：中世～現代のまとめ。定期試験。				
テキスト:1冊の本に沿った講義ではなく、テキストはないが、参考書のいずれかを入手して欲しい。				
参考書・参考資料等 『大学でまなぶ日本の歴史』木村茂光ほか編著 吉川弘文館,2016 『新もういちど読む山川日本史』五味文彦, 鳥海靖編著,山川出版社,2017				
学生に対する評価 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%				

授業科目名： 歴史考古学Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：小林克 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史					
授業のテーマ及び到達目標考古学的資料が、歴史研究にどのように活用できるのか理解する。 中世・近世・近現代の歴史考古学的研究が歴史叙述に生かされていることを理解する。							
授業の概要 考古学の一分野である歴史考古学は、古代以降の歴史研究を、文献史学(古文書学)とともに探求していく学問である。特に地域の歴史を明らかにしていく上では、考古資料は大切な根拠資料となる。最初に歴史学との関係や、考古学研究としての方法、目的、成果を説明する。その上で、様々な事例を交えつつ、日本列島における歴史考古学の現状と成果を、古代・中世を中心に学ぶ。							
授業計画							
第1回：ガイダンス。授業の進め方、評価方法の説明。考古学研究の特徴について							
第2回：考古学研究と歴史考古学研究。文献史研究との関係を説明し、地域史研究におけるその意義について。							
第3回：歴史考古学と関連諸学。民俗学、美術史、建築史等との関係を説明し物質文化研究を理解する							
第4回：具体的研究(1) 都市鎌倉の発掘調査と成果							
第5回：ヨーロッパの古典考古学と中世以降の都市考古学。							
第6回：民族考古学的な歴史考古学の危険性。E.Hエガースの研究を通じてその方法論の大切さを理解する。							
第7回：日本の古代の歴史考古学。中国大陸、朝鮮半島との関連からの年代決定と国内の文献史料の利用							
第8回：具体的研究(2) 古代都市の発掘調査と成果。大阪の古代難波の宮の発掘調査							
第9回：平安時代の歴史考古学。都市、寺院跡、集落の発掘から分かることと文献史料の関係							
第10回：仏教関連遺跡の歴史考古学							
第11回：関東の城と発掘調査の成果							
第12回：伊豆諸島の古代～中世考古学の成果							
第13回：戦国時代の城と都市の調査							
第14回：考古資料と文献史料から判明した品川と伊勢の結びつき							
第15回：歴史考古学のまとめ。定期試験							
テキスト なし							
参考書・参考資料等 『歴史時代を掘る』坂詰秀一著 同成社2013							
学生に対する評価 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%							

授業科目名： 歴史考古学Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林 克 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 考古学的資料が、歴史研究にどのように活用できるのか理解する。 中世・近世・近現代の歴史考古学的研究が歴史叙述に生かされていることを理解する。				
授業の概要 歴史考古学中でも近年研究が進んだ近世考古学に焦点を当てて、その成果を明らかにする。近世考古学研究と近現代考古学研究について、特に出土遺物を中心に学ぶ。				
授業計画 第1回：ガイダンス。授業の進め方、評価方法の説明。考古学研究の特徴について 第2回：考古学研究と歴史考古学研究。世界の都市考古学と日本の近世考古学。近世考古学と江戸遺跡研究。その意義と成果。文献史研究との関係を説明する 第3回：都市江戸のインフラ(1) 上水道と水の流れ、下水 第4回：都市江戸のインフラ(2) 土地の造成と埋め立て。糞尿の処理とそのシステム 第5回：江戸の生活文化(1) 火の利用①。発火具とあかり 第6回：江戸の生活文化(2) 火の利用②。 煮炊きと暖房 第7回：平戸、長崎の発掘とその成果。 第8回：世界の都市遺跡の発掘とその成果 ヨーロッパとアメリカ ロンドン、アムステルダム、ニューヨーク、タイ・アユタヤ、台湾・台南ゼーランディア、澎湖島他 第9回：18世紀、日本における白砂糖の製造の開始と世界の白砂糖 第10回：17世紀における茶・コーヒー・チョコレートと砂糖の世界での拡散と使用されたカップ&ソーサー 第11回：日本の近世遺跡の発掘との同時代世界各地の遺跡の比較研究。 第12回：近・現代考古学 産業史跡と考古学 第13回：近・現代考古学 戦争遺跡 第14回：近世～近現代遺跡の保存と活用 第15回：歴史考古学のまとめ。定期試験				
テキスト 特定の教科書はないが、必要に応じ以下の参考文献を必ず読むこと。				
参考書・参考資料等 『図説江戸考古学研究事典』江戸遺跡研究会編 柏書房2001 『近世物質文化の考古学的研究』小林克著 六一書房2021 『考古学が語る日本の近現代』小林克他著 同成社2007				
学生に対する評価 平常点(授業中の発言、多くの回で実施する小テスト)40%、レポート(2回程度)20%、試験40%				

授業科目名： 外国史概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 幹彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、基礎レベルの外国史概論でグローバル・ヒストリーの世界史（外国史）の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史概論である。到達目標は、時間的に数世紀単位で、空間的に地球的規模で、世界の諸地域や各人間集団の相互連関の世界史を理解させることである。			
授業の概要 基礎的な外国史概論Ⅰ。1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3. 情熱的でアンケートで改善する学習者中心主義の授業。3. 知識＋討論＋思考＝独創性開発。4. 成功哲学(信念をもち、努力すれば、勉強はできるようになる)。5. ICT(情報通信技術)使用のわかりやすい授業。			
授業計画 基礎レベルの外国史概論Ⅰ 第1回：外国史概論Ⅰの目次の説明（古代史、中世史、近世史、近代史、現代史） 第2回：オリエントと地中海世界について 第3回：アジアとアメリカの古代文明について 第4回：内陸アジア世界と東アジア世界の形成について 第5回：イスラーム世界の形成と発展について 第6回：ヨーロッパ世界の形成と発展について 第7回：内陸アジア世界と東アジア世界の展開について 第8回：アジア諸地域の繁栄について 第9回：近世ヨーロッパ世界の形成について 第10回：近世ヨーロッパ世界の展開について 第11回：近代ヨーロッパとアメリカ世界の成立について 第12回：欧米における近代国民国家の発展について 第13回：アジア諸地域の動揺について 第14回：帝国主義とアジアの民族運動について 第15回：二つの世界大戦と冷戦と第三世界について 定期試験			
テキスト 木村靖二、佐藤次高、岸本美緒、油井大三郎、青木康、小松久男、水島司、橋場弦（著）、『アナウンサーが読む聞く教科書 山川詳説世界史』改訂版、山川出版社、2017年。			
参考書・参考資料等 世界史小辞典編集委員会（編）、『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2011年。			
学生に対する評価 定期試験（50％）、レポート（50％）。			

授業科目名： 外国史概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 幹彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、応用レベルの外国史概論でグローバル・ヒストリーの世界史（外国史）の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史概論である。到達目標は、時間的に数世紀単位で空間的に地球的規模で世界の諸地域や各人間集団の相互連関の世界史を理解させることである。			
授業の概要 応用的な外国史概論Ⅱ。1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3 Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感（self-efficacy）の授業。4. 成功哲学(信念+努力=成功つまり目標達成)。5. 夢（Dreams come true. 夢が叶う）と目標を達成させる。			
授業計画 応用レベルの外国史概論Ⅱ 第1回：外国史概論Ⅱの目次の説明（東アジア史、東南アジア史、西アジア史、欧州史、米国史） 第2回：古代のユーラシアネットワークについて 第3回：唐帝国とアジアのネットワークについて 第4回：イスラーム世界のネットワークについて 第5回：アジアのネットワークについて 第6回：大モンゴル国とネットワークについて 第7回：明帝国と清帝国のネットワークについて 第8回：東南アジアとポルトガル海洋帝国と大西洋交易圏について 第9回：東南アジアとオランダ海洋帝国と大交易について 第10回：アジアとヨーロッパのネットワークについて 第11回：アジアとイギリス海洋帝国とネットワークについて 第12回：アジアとアメリカ合衆国とネットワークについて 第13回：アジア交流圏とネットワークの形成について 第14回：交流圏とネットワークの展開について 第15回：応用レベルの外国史論Ⅱのまとめ 定期試験			
テキスト 木村靖二、岸本美緒、小松久男（編）、『詳説世界史研究』、山川出版社、2019年。			
参考書・参考資料等 世界史小辞典編集委員会（編）、『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2011年。			
学生に対する評価 定期試験（50％）、レポート（50％）。			

授業科目名： アメリカ史Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：末次俊之 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 外国史					
授業のテーマ及び到達目標							
太平洋戦争を経て同盟国となったアメリカは、戦後の日本に対して常に大きな影響力を持ち続けている。アメリカの政治、経済や文化、科学技術などに関する情報も、日本でもメディアを通じて身近に触れることが可能である。もちろん、アメリカは国際社会での影響力をその建国から持ち合わせていたわけではない。国としての歴史は約250年余りでありながらも、日本を含めて世界各地に大きな影響力を持つに至っている。講義を通じて、現在のアメリカへの我々の見方を、より「複眼的」に捉えられるようになることを目指す。講義の中でQ&Aも時節行う。							
授業の概要							
アメリカの歴史と文化について、北米先住民の歴史から21世紀まで、その基礎的な流れを説明していく。							
授業計画							
第1回：オリエンテーション：アメリカの歴史をアメリカ人はどのようなものと捉えているかを概略する。自己紹介。							
第2回：北米大陸先住民の世界：ヨーロッパ人入植以前の先住民の歴史・文化を学ぶ。							
第3回：植民地時代：独立までの約170年間、イギリス領植民地における「新世界」建設のプロセスを説明する。							
第4回：アメリカ独立革命：イギリス領であった北米植民地がいかなる経緯を経て独立を成功させたのか、その背景を概略する。							
第5回：「アメリカ合衆国」の建設：建国初期「共和国」をめぐる国家機構の整備において、憲法と指導者たちの思想を説明する。							
第6回：領土の拡大：19世紀半ばには太平洋までの広大な領土を持つに至った「西漸運動」の様相を理解する。							
第7回：南北戦争と「再建」：「奴隷制」をめぐる対立が未曾有の内戦を生じさせるが、その前史と「再建時代」も含めて学ぶ。							
第8回：中間テスト：前半の復習。							
第9回：金ぴか時代と「革新主義」：戦後、飛躍的な経済発展と海外進出がなされる中での、国内の混乱と社会運動を整理する。							
第10回：第一次世界大戦と1920年代：大戦後、国際政治の表舞台に立ち、空前の好景気を享受するアメリカ社会の様相を学ぶ。							

第11回：ニューディールと第二次世界大戦：大恐慌による社会の混乱とローズベルト大統領、第二次大戦中のアメリカを概略する。 第12回：冷戦とアメリカ外交：第二次大戦後勃発する「冷戦」への対応とアメリカ外交の変遷を理解する。 第13回：第二次対戦後から1970年代のアメリカ社会：戦後経済繁栄を謳歌する中で、様々な展開を見せる社会運動を学ぶ。 第14回：21世紀のアメリカ：1990年代冷戦の終結をへて21世紀を迎えたアメリカの内政・外交政策を整理する。 第15回：総括 定期試験
テキスト 和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）
参考書・参考資料等 毎回資料を配布する。
学生に対する評価 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。

授業科目名： アメリカ史Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：末次俊之 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 外国史					
授業のテーマ及び到達目標							
太平洋戦争を経て同盟国となったアメリカは、戦後の日本に対して常に大きな影響力を持ち続けている。もちろん、アメリカは国際社会での影響力をその建国から持ち合わせていたわけではない。第二次世界大戦後の冷戦期、アメリカは西側諸国のリーダーとして振る舞う中で、その中心には歴代大統領たちの存在があった。講義を通じて、現在のアメリカへの我々の見方を、より「複眼的」に捉えられるようになることを目指す。講義の中でQ&Aも時節行う。							
授業の概要 1930年代から始まる「現代アメリカ」の歴史について、政治リーダーである歴代大統領たちの経歴、思想、政策、政治課題などを説明し、これを通じてアメリカの歴史や社会、文化を学ぶ。							
授業計画							
第1回：オリエンテーション：アメリカ社会のなかで「大統領」はどのような存在かを概略する。自己紹介。							
第2回：F・D・ローズベルト							
第3回：H・S・トルーマン							
第4回：D・D・アイゼンハワー							
第5回：J・F・ケネディ							
第6回：L・B・ジョンソン							
第7回：R・M・ニクソン							
第8回：中間テスト：前半の復習							
第9回：G・R・フォード、J・E・カーター							
第10回：R・W・レーガン							
第11回：G・H・W・ブッシュ							
第12回：W・J・クリントン							
第13回：G・W・ブッシュ Jr.							
第14回：B・H・オバマ							
第15回：D・J・トランプ、総括							
定期試験							
テキスト 授業毎にレジュメ、資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
藤本一美編『戦後アメリカ大統領事典』（大空社、2009年）							
学生に対する評価							
授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（40％）、定期試験（40％）等で総合評価する。							

授業科目名： アジア史Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 幹彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、基礎レベルのアジア史でグローバル・ヒストリーのアジア史の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、アジアの人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史である。到達目標は、時間的に数世紀単位で、空間的に地球規模で、世界の諸地域や各人間集団の相互連関のアジア史を理解させることである。			
授業の概要 基礎的なアジア史Ⅰ。1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3. 情熱的でアンケートで改善する学習者中心主義の授業。3. 知識＋討論＋思考＝独創性開発。4. 成功哲学(信念をもち、努力すれば、勉強はできるようになる)。5. ICT(情報通信技術)使用のわかりやすい授業。			
授業計画 基礎レベルのアジア史Ⅰ 第1回：アジア史Ⅰの目次の説明（古代史、中世史、近世史、近代史、現代史） 第2回：オリент世界について 第3回：西アジア世界について 第4回：アジアの古代文明について 第5回：内陸アジア世界の形成について 第6回：東アジア世界の形成について 第7回：イスラーム世界の形成について 第8回：イスラーム世界の発展について 第9回：内陸アジア世界の展開について 第10回：東アジア世界の展開について 第11回：アジア諸地域の繁栄について 第12回：アジア諸地域の動揺について 第13回：帝国主義とアジアの民族運動について 第14回：二つの世界大戦について 第15回：冷戦と第三世界について 定期試験			
テキスト 木村靖二、佐藤次高、岸本美緒、油井大三郎、青木康、小松久男、水島司、橋場弦（著）、『アナウンサーが読む聞く教科書 山川詳説世界史』改訂版、山川出版社、2017年。			
参考書・参考資料等 世界史小辞典編集委員会（編）、『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2011年。			
学生に対する評価 定期試験（50％）、レポート（50％）。			

授業科目名： アジア史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤 幹彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、応用レベルのアジア史でグローバル・ヒストリーのアジア史の古代史、中世史、近世史、近代史、現代史を論じ、アジアの人々が三つの道で交易した異文化間の交流ネットワーク史である。到達目標は、時間的に数世紀単位で空間的に地球的規模で世界の諸地域や各人間集団の相互連関のアジア史を理解させることである。			
授業の概要 応用的なアジア史Ⅱ。1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力を育む。2. インターアクションで自己肯定感を高める。3. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感（self-efficacy）の授業。4. 成功哲学(信念+努力=成功つまり目標達成)。5. 夢（Dreams come true. 夢が叶う）と目標を達成させる。			
授業計画 応用レベルのアジア史Ⅱ 第1回：アジア史Ⅱの目次の説明（東アジア史、東南アジア史、西アジア史、南アジア史） 第2回：古代の西アジアのネットワークについて 第3回：唐帝国とアジアのネットワークについて 第4回：イスラーム世界のネットワークについて 第5回：アジアのネットワークについて 第6回：大モンゴル国とネットワークについて 第7回：明帝国のネットワークについて 第8回：清帝国のネットワークについて 第9回：東南アジアと大西洋交易圏について 第10回：東南アジアと大交易について 第11回：アジアとヨーロッパのネットワークについて 第12回：アジアとイギリス海洋帝国とネットワークについて 第13回：アジアとアメリカ合衆国とネットワークについて 第14回：アジア交流圏とネットワークの形成について 第15回：応用レベルのアジア史のまとめ 定期試験			
テキスト 木村靖二、岸本美緒、小松久男（編）、『詳説世界史研究』、山川出版社、2019年。			
参考書・参考資料等 世界史小辞典編集委員会（編）、『山川世界史小辞典（改訂新版）』、山川出版社、2011年。			
学生に対する評価 定期試験（50％）、レポート（50％）。			

授業科目名： 人文地理学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 単位		担当教員名：南 春英 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 人文地理学・自然地理学					
授業のテーマ及び到達目標							
人間活動にかかわる現象の特徴とその地域差と、空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。また、自然や人間の様々な活動に関する主体図、グラフ、地図などの複数の資料を収集または作成し、地理学的視点から読み解くことと、比較分析することができる。							
授業の概要							
本授業では、人文地理学の観点から地表面上の現象に注目し、人文地理学の基本的な概念と地理情報の表現方法について学ぶ。また、身の回りの地域やグローバル化している現代世界の経済活動に関する地理的現象を捉え、人間活動にかかわる地域の特徴とその地域差、そしてその要因などについて理解を深める。資源・産業・生活・文化に関する現象を学ぶ。							
授業計画							
第1回：ガイダンス 授業内容の説明							
第2回：人文地理学の主要な概念							
第3回：人文地理学の視点と対象							
第4回：人文地理学の研究手法① 文献の収集方法と地図と空中写真を利用した資料の収集							
第5回：人文地理学の研究手法② フィールドワーク							
第6回：経済地理学の基礎知識① 農業分野							
第7回：経済地理学の基礎知識② 工業分野							
第8回：社会地理学の基礎知識 人口現象に関する地理学							
第9回：文化地理学の基礎知識 世界文化に関する地理学							
第10回：現代の地域問題① 地域間格差							
第11回：現代の地域問題② 地域活性化の現状と課題							
第12回：神奈川県統計データを調べる 産業と人口関連データ							
第13回：神奈川県統計データ利用して発表① 産業関連発表							
第14回：神奈川県統計データ利用して発表② 人口関連発表							
第15回：まとめ							
定期試験							
テキスト							
なし。必要に応じてプリントを配布します。							
参考書・参考資料等							

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著（2020）『経済地理学への招待』 ミネルヴァ書房. 人文地理学会編（2013）『人文地理学事典』 丸善出版. 寶清隆（2010）『大学テキスト 人文地理学』 古今書院. 竹中克行（2015）『人文地理学への招待』 ミネルヴァ書房. 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』 帝国書院. 帝国書院編集部編（2020）『新詳資料 地理の研究』 帝国書院. 帝国書院（2020）『最新基本地図―世界・日本―44 訂版』 帝国書院. 野間晴雄・香川貴志・土平博・河角龍展・山田周二・小原丈明（2017）『ジオ・パルNEO― 地理学・地域調査便利帖 第2版』 海青社.
学生に対する評価 授業外課題（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 自然地理学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：南 春英 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 人文地理学・ 自然地理学					
授業のテーマ及び到達目標 高等学校地理歴史科の学習指導要領の目標・内容を理解したうえで、自然の成り立ちと、地球環境問題・自然災害に関する自然地理学的な見方や考え方ができる。また、自然や人間の様々な活動に関する主体図、グラフ、地図などの複数の資料を収集、または作成し、地理学的視点から読み解くことと、比較分析することができる。							
授業の概要 自然地理学的要素から総合的に地域の自然環境特性や環境問題を捉える。また、日本 および世界の事例を解説する。高等学校地理科目の教科書記述事項についても説明する。							
第1回：ガイダンス 授業内容の説明							
第2回：自然地理学とは 自然地理学の目的と課題							
第3回：地理情報と表現方法							
第4回：読図① 25,000分の1地形図の地図記号							
第5回：読図② 時系列地形図（今昔マップ）							
第6回：地図と空中写真を利用した資料の収集							
第7回：地球の姿と成り立ち							
第8回：世界の地形① 地球規模の大地形							
第9回：世界の地形② 河川と海岸の小地形							
第10回：世界の気候 気候の成り立ちと世界の気候区分							
第11回：日本の自然環境と自然災害							
第12回：アメリカの自然環境と自然災害							
第13回：中国の自然環境と自然災害							
第14回：神奈川の自然災害伝承碑からみられる神奈川の自然災害							
第15回：まとめ							
定期試験							
テキスト なし。必要に応じてプリントを配布する。							
参考書・参考資料等 籠瀬良明著（2012）『大学テキスト 地図読解入門』古今書院。 鈴木康弘編（2019）『防災・減災につなげるハザードマップの活かし方』岩波書店。 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院。							

帝国書院（2020）『最新基本地図—世界・日本—44訂版』帝国書院.

松原彰子著（2020）『自然地理学 第6版:地球環境の過去・現在・未来』慶応義塾大学出版会.

松山洋・川瀬久美子・辻村真貴著（2014）『自然地理学』ミネルヴァ書房.

吉田英嗣著（2019）『はじめての自然地理学』古今書院.

学生に対する評価

授業外課題（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 地理学概論Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：南 春英 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 人文地理学・自然地理学					
授業のテーマ及び到達目標							
地理学に関わる歴史や基本概念について、具体例を通して地理学がいかなる学問であるかを理解し、説明できるようになることが目的をする。また、人間の生活・活動・行動が展開する空間、場所、環境に対する深い認識と説明力を習得し、地理学の見方で身近の空間を理解できるようになることが目的とする。							
授業の概要							
地理学の歴史と発展を紹介し、現代地理学の知識体系及び地図、フィールドワークなどの地理学研究の基本的方法を講義する。							
授業計画							
第1回：ガイダンス 授業内容の説明							
第2回：地理学史の概略							
第3回：地理学とは① 地理学の目的と課題							
第4回：地理学とは② 現代における地理学の定義、研究分野の分け方							
第5回：地理学とは③ 地理学の中心概念：空間、場所、環境							
第6回：現代地理学の課題と自然環境（自然地理学の諸分野）							
第7回：現代地理学の課題と人文社会（人文地理学の諸分野）							
第8回：地図の基本と応用：地図はなぜ必要か							
第9回：地理情報と表現方法							
第10回：地図の概要と地形図の読図							
第11回：フィールドワーク① 地域を調査する方法							
第12回：フィールドワーク② 地域調査する際の心構えと注意点							
第13回：地理学の視点で地域を考える（事例解説① 原宿）							
第14回：地理学の視点で地域を考える（事例解説② 白川郷）							
第15回：まとめ							
定期試験							
テキスト							
なし。必要に応じてプリントを配布する。							
参考書・参考資料等							
上野和彦・椿真智子・中村康子（2015）『地理学概論 第2版』朝倉書店。							
高橋日出男・小泉武栄（2008）『自然地理学概論』朝倉書店。							
松山洋・川瀬久美子・辻村真貴著（2014）『自然地理学』ミネルヴァ書房。							
学生に対する評価							
授業外課題（40％）、定期試験（60％）							

授業科目名： 地理学概論Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：南 春英 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指す。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指す。				
授業の概要 世界の地形、気候、資源、産業、文化など自然地理学と人文地理学の分野を説明し、地理学的な考え方をを用いて人口問題、都市問題、環境問題を考える。				
授業計画				
第1回：ガイダンス 授業内容の説明				
第2回：地理学とは 地理学の目的とアプローチ				
第3回：地誌学と国際理解教育 アジアにおける地理教育				
第4回：生活の舞台としての地形① 世界の地形、地殻変動				
第5回：生活の舞台としての地形② 日本の地形の特徴と人間生活				
第6回：世界の気候① 気候と気象、気候要素、ケッペンの気候区分				
第7回：世界の気候② 気候変化と地球温暖化、日本の気候の特徴と人間生活				
第8回：世界の資源と産業① 世界の農牧業、日本の農業				
第9回：世界の資源と産業② 世界の鉱産資源、工業の発達過程				
第10回：世界の都市・居住問題				
第11回：世界の人口・食糧問題				
第12回：世界の環境問題				
第13回：受講者による発表① 身近な地域を調べよう				
第14回：受講者による発表② 身近な地域を調べよう				
第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト なし。必要に応じてプリントを配布します。				
参考書・参考資料等				
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著（2020）『経済地理学への招待』 ミネルヴァ書房.				
人文地理学会編（2013）『人文地理学事典』 丸善出版.				
實清隆（2010）『大学テキスト 人文地理学』 古今書院.				
竹中克行（2015）『人文地理学への招待』 ミネルヴァ書房.				
帝国書院編集部編（2020）『新詳資料 地理の研究』 帝国書院.				
帝国書院（2020）『最新基本地図―世界・日本―44 訂版』 帝国書院.				
野間晴雄・香川貴志・土平博・河角龍展・山田周二・小原文明（2017）『ジオ・パルNEO―地理学・地域調査便利帖 第2版』 海青社.				
学生に対する評価 授業外課題（20％）、定期試験（50％）、発表（30％）				

授業科目名： 地誌		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：南春英 担当形態：単独	
科 目			教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）				
施行規則に定める 科目区分又は事項等			教科に関する専門的事項 ・ 地誌				
授業のテーマ及び到達目標							
本講義を受講することによって受講者が、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることを目指す。また、地域を科学的に見ることを目指す。							
授業の概要							
日本とアメリカ、中国と韓国の自然環境と産業、社会、文化の特色について講義する。受講者は、授業を通して地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深める。							
授業計画							
第1回： イントロ 授業内容の説明							
第2回： 地誌学とは 地誌学の目的とアプローチ							
第3回： 日本の事例① 原宿：歴史と若者の街							
第4回： 日本の事例② 福岡：近代産業と九州地域における福岡一極集中							
第5回： 日本の事例③ 郡上八幡町：水資源を利用したまちづくり							
第6回： アメリカ合衆国の地誌① 自然環境と自然災害							
第7回： アメリカ合衆国の地誌② 産業と暮らし							
第8回： 中国の地誌① 中国自然環境と自然災害							
第9回： 中国の地誌② 中国の抱える人口問題の現状							
第10回： 中国の地誌③ 中国の多民族と文化の多様性							
第11回： 中国の地誌④ 中国自然環境と人文環境から生まれた食文化							
第12回： 中国の地誌⑤ 中国人の現在の暮らし							
第13回： 韓国の地誌① 自然環境と文化							
第14回： 韓国の地誌② 産業と暮らし							
第15回： まとめ							
定期試験							
テキスト							
教科書はない。授業中に資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
オリヴィエ・ダベヌ，フレデリック・ルオーほか（2018）『地図で見るラテンアメリカハンドブック』原書房.							

可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社.
 河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房.
 菊地俊夫（2011）『日本（世界地誌シリーズ1）』朝倉書店.
 季 増民（2008）『中国地理概論』ナカニシヤ出版.
 高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店.
 陳 舜臣・尾崎秀樹（1993）『中国：読んで旅する世界の歴史と文化』新潮社.
 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院.
 帝国書院（2020）『最新基本地図―世界・日本―44訂版』帝国書院.
 藤野 彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店.
 矢ヶ崎典隆（2011）『アメリカ（世界地誌シリーズ4）』朝倉書店.
 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店.
 立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院.

学生に対する評価

授業外課題（40％）、定期試験（40％）、授業参加度（20％）

授業科目名： 地理歴史科教育法Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：南春英 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標				
高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容と留意点を考え、理解する。 また、地理歴史教育やカリキュラムの歴史的な変遷を踏まえて、地理歴史教育の今日的意義について説明することができる。さらに、地理歴史教育の新たな試みを理解する。				
授業の概要				
学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学び、地理歴史教育の新たな試みについて講義していく上で、授業づくりのための基礎的力量を身に付ける。				
授業計画				
第1回：ガイダンス 授業内容の説明				
第2回：戦後の社会科の成立と教科のねらい				
第3回：教育課程の編成と他国の「教育課程」と教科書の特徴を紹介				
第4回：地理歴史科分野の学習指導要領の変遷				
第5回：地理歴史科における資質・能力を考察				
第6回：地理歴史科の地理総合における性格と目標および内容とその取り扱い				
第7回：地理歴史科の地理総合における学習指導要領の指導上の留意点				
第8回：地理歴史科の地理探求における性格と目標および内容とその取り扱い				
第9回：地理歴史科の地理探求における学習指導要領の指導上の留意点				
第10回：具体的な教材研究① 地理歴史科地理総合「地図や地理情報システムで捉える現代世界」の内容構成				
第11回：具体的な教材研究② 地理歴史科地理総合「国際理解と国際協力」の内容構成				
第12回：具体的な教材研究③ 地理歴史科地理総合「持続可能な地域づくりと私たち」の内容構成				
第13回：新学習指導要領の課題				
第14回：指導案実例を紹介				
第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト				
文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編 平成29年7月』 東洋館出版社。				

参考書・参考資料等

碓井照子（2018）『「地理総合」ではじまる地理教育：持続可能な社会づくりをめざして』古今書院.

新保修（2021）『主体的・対話的で深く、新学習指導要領を読む』東洋館出版社.

高等学校地理歴史科（地理・日本史・世界史）の文部科学省検定済み教科用図書（教科書）.

櫻井明久（2011）『社会科教師のための地理教材の作り方』古今書院.

学生に対する評価

授業外課題（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 地理歴史科教育法Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：南春英 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え、理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身につける。				
授業の概要 高校地歴科の授業の実際を学ぶ。教員として授業を担当する際、どのように教材研究をするのか、また、生徒に対してどの学習方法をもって授業を展開していくのかについて学習する。地歴科についての模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。				
授業計画 第1回：ガイダンス 授業内容の説明 第2回：学習指導要領の変化① 平成30年版地理歴史科における新設部分を確認 第3回：学習指導要領の変化② 平成30年版地理歴史科における改訂部分を確認 第4回：授業研究① 日本とアジア 指導案の実例と検討 第5回：授業研究③ アジアと世界 指導案の実例と検討 第6回：情報通信技術の活用① 国土地理院地図の活用 第7回：情報通信技術の活用② 今昔マップの活用 第8回：模擬授業設計と指導案の作成 第9回：指導案の検討と模擬授業の準備 第10回：模擬授業① グループごとプレゼンテーション（発表は受講者前半グループ） 第11回：模擬授業② グループごとプレゼンテーション（発表は受講者後半グループ） 第12回：模擬授業の振り返り① グループごとの授業改善点の検討 第13回：模擬授業の振り返り② グループごとの授業改善のための対策案を考案 第14回：地理歴史科の実践研究の動向 第15回：まとめ 定期試験				
テキスト 教科書はない。授業中に資料を配布する。				
参考書・参考資料等 碓井照子（2018）『「地理総合」ではじまる地理教育：持続可能な社会づくりをめざして』古今書院。 新保修（2021）『主体的・対話的で深く、新学習指導要領を読む』東洋館出版社。 櫻井明久（2011）『社会科教師のための地理教材の作り方』古今書院。 高等学校地理歴史科（地理・日本史・世界史）の文部科学省検定済み教科用図書（教科書）				
学生に対する評価 授業指導案（30％）、定期試験（40％）、発表（30％）				

授業科目名： 憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高乗 智之 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標（１）「法的思考」の習得と自らの言葉で憲法論を展開すること、 （２）「憲法とは何か」についての理解を深めること、（３）日本国憲法の成立過程、日本国憲法の具体的内容（憲法の性格と特色）、問題点などについて共に考えていくこと。			
授業の概要 この講義では、国家社会の基本法である日本国憲法の基本原理と大綱について理解が得られるように解説をする。ここでは、日本国憲法の基本構造と、その課題を共有し、自らの力で憲法問題を考えることを中心目的とする。前半は、「法的なものの考え方」の習得を目指し基礎理論の理解を目的とした説明を行う。その後、日本国憲法の全体像を把握するため、人権や統治の基本事項を扱う。本講義では、立憲主義の原理原則、制度の背後にある理念、人権 思想を基にして、個々の事例について共に考えていきたい。			
授業計画			
第1回：憲法とは何か		憲法学習の勧め、憲法学習の基礎、憲法と法律の違い	
第2回：国家と国家権力と憲法		国家と憲法と国家機関の違い、憲法の本質、憲法の前提	
第3回：憲法の任務		法の支配と法治主義	
第4回：大日本帝国憲法の基本構造と日本国憲法の成立過程		憲法成立の法理	
第5回：憲法9条と自衛隊		自衛権と憲法9条	
第6回：憲法9条と安保法制		集団的自衛権を中心に	
第7回：個人の尊厳と平等		マイノリティの人権保障	
第8回：精神的自由権		ヘイトスピーチを考える	
第9回：身体的自由権		死刑制度を考える	
第10回：経済的自由権		経済活動の特別な制限を中心に	
第11回：社会権		教育現場における憲法論	
第12回：国会・内閣・裁判所		総論	
第13回：国会・内閣・裁判所		各論	
第14回：憲法改正問題（1）		憲法9条改正論、家族条項	
第15回：憲法改正問題（2）		あるべき憲法を考える	
テキスト			
高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅱ 憲法編』（成文堂）¥1,900＋税			
参考書・参考資料等 授業中に適宜指示			
学生に対する評価 小テスト・レポート等（30％）、定期試験（70％）等で総合評価する。			

授業科目名： スポーツ実技A		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1単位		担当教員名：白井 大史 担当形態：単独	
科 目		教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育					
授業のテーマ及び到達目標							
近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。							
授業の概要 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。							
授業計画							
第 1回：オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）							
第 2回：卓球（ルール解説、サーブ、基本プレイ）							
第 3回：卓球（シングルスゲーム）							
第 4回：卓球（ダブルスゲーム）							
第 5回：ソフトボール（ルール解説、守備）							
第 6回：ソフトボール（攻撃、走塁）							
第 7回：ソフトボール（ゲーム）							
第 8回：テニス（ルール解説、サーブ、基本プレイ）							
第 9回：テニス（シングルスゲーム）							
第10回：テニス（ダブルスゲーム）							
第11回：バドミントン（ルール解説、ディフェンスプレイ）							
第12回：バドミントン（オフェンスプレイ）							
第13回：バドミントン（シングルスゲーム）							
第14回：バドミントン（ダブルスゲーム）							
第15回：本講のまとめ							
テキスト 特になし							
参考書・参考資料等 特になし							
学生に対する評価 授業参加状況等（70％）、実技試験（30％）等で総合評価する。							

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：白井 大史
スポーツ実技B	必修科目	1単位	担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。			
また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。			
授業の概要 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、バスケットボール、バレーボール、サッカー、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。			
授業計画			
第 1回：オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）			
第 2回：フットサル（ルール解説、オフェンスプレイ）			
第 3回：フットサル（ゲーム）			
第 4回：サッカー（ルール解説、ディフェンスプレイ）			
第 5回：サッカー（オフェンスプレイ）			
第 6回：サッカー（ゲーム）			
第 7回：バスケットボール（ルール解説、ディフェンスプレイ）			
第 8回：バスケットボール（オフェンスプレイ）			
第 9回：バスケットボール（ゲーム）			
第10回：バスケットボール（3x3のルール解説、ゲーム）			
第11回：バレーボール（ルール解説、ディフェンスプレイ）			
第12回：バレーボール（オフェンスプレイ）			
第13回：バレーボール（ゲーム）			
第14回：バレーボール（ソフトバレーボールのルール解説、ゲーム）			
第15回：本講のまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。			

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：廣本 和枝 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語コミュニケーションの基礎レベル、Common European Framework of Reference A1・A2に達することを目標とします。			
授業の概要 会話、文法、リーディングからなるテキストを使用します。英語の基礎的なスキルを学び直し、いわゆる学校文法の理解を確認する授業です。学生が英語を使う機会をできるだけ多くするために、ペア・ワーク、グループワーク、ゲームなども取り入れます。			
授業計画 第1回：Unit 1 See You Soon 現在形と進行形 第2回：Unit 2 Welcome to Japan! 数えられる名詞と数えられない名詞 第3回：Unit 3 Sandy's First Sushi 代名詞の使い分け 第4回：Unit 4 Festival fun 形容詞と副詞 第5回：Unit 5 Play Ball! 場所の前置詞と時の前置詞 第6回：Unit 6 Lucky Cats Yes / No疑問文とWh疑問文 第7回：Unit 7 No one Sings Like Brian 他動詞と自動詞 第8回：Unit 8 Yui's Cooking Class 不定詞と動名詞 第9回：Unit 9 Where's Sandy? 過去形と過去進行形と現在完了形 第10回：Unit 10 Let's Take a Hike will とbe going to 第11回：Unit 11 Time for a Tour 助動詞の使い分け 第12回：Unit 12 Photos from Hakone 比較級と最上級 第13回：Unit 13 Sho's Barbecue Party 能動態と受動態 第14回：Unit 14 On the Go 接続詞の使い分け 第15回：Unit 15 Sandy's Farewell Dinner 関係詞の使い分け			
テキスト English Contrasts R. Hickling 金星堂 ￥1,900（税別）			
参考書・参考資料等 How English Works M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press			
学生に対する評価 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50％）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50％）を総合して評価します。			

授業科目名： 英語Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1単位		担当教員名：廣本 和枝 担当形態：単独	
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標 英語コミュニケーションのCommon European Framework of Reference B1に到達することを目標します。							
授業の概要 リスニングとリーディングを中心にして、筆者の体験に基づいて書かれたテキストを使用します。ペアワーク、グループワーク、ゲームなどを採り入れて、学生が楽しく英語を使う時間をできるだけ多くなるようにします。							
授業計画 第1回：Lesson 1 Physical Education Lesson 2 Sports Club 第2回：Lesson 3 Cultural differences Lesson 4 Haircuts 第3回：Lesson 5 Music Lesson 6 Money 第4回：Lesson 7 Safety Lesson 8 Life Expectancy 第5回：Review Lesson 1－Lesson 8 第6回：Lesson 9 The Metric System Lesson 10 Police 第7回：Lesson 11 Seasons Lesson 12 TV Sports 第8回：Lesson 13 Business Lesson 14 Jobs 第9回：Lesson 15 NHK vs. PBS Lesson 16 Marriage Ceremonies 第10回：Review Lesson 9－Lesson 16 第11回：Lesson 17 American Culture Lesson 18 International Marriage 第12回：Lesson 19 Apartments Lesson 20 Technology 第13回：Lesson 21 School Rules Lesson 22 Drinking 第14回：Lesson 23 Entertaining Lesson 24 Choice 第15回：Review Lesson 17－Lesson 24							
テキスト Eye on America and Japan 南雲堂 ￥1,800（税別）							
参考書・参考資料等 How English Works M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press							
学生に対する評価 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50％）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50％）を総合して評価します。							

授業科目名： コンピュータプレゼンテーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金 幸郁 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的なプレゼンテーション手法について理解し、PCで情報を的確に伝えるスライドを作成し、それらを効果的に活用したプレゼンテーションを行うことが目標となる。			
授業の概要 プレゼンテーション能力はアカデミックのみならず、一般社会においても必要不可欠な能力となっている。とりわけ現代社会においては、PCを活用したプレゼンテーションが求められており、PCを効果的に活用したプレゼンテーションの手法について演習を通して学習する。			
授業計画 第 1回：シラバスの確認、プレゼンテーションとPCの活用 第 2回：スライドファイルの作成と基本操作 第 3回：プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (1) 第 4回：プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (2) 第 5回：効果的なスライドの作成 第 6回：グループでのプレゼンテーション ～企画立案 第 7回：グループでのプレゼンテーション ～リサーチと構成 第 8回：グループでのプレゼンテーション ～スライドの作成 第 9回：プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表 (1) 第10回：プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表 (2) 第11回：プレゼンテーション手法の研究 第12回：個人でのプレゼンテーション ～企画立案、リサーチ 第13回：個人でのプレゼンテーション ～スライドの作成 第14回：プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (3) 第15回：プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (4)			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 講義内で指示する			
学生に対する評価 授業内での演習・発表（60％）、授業への取り組み（20％）、課題提出（20％）等で総合評価する。			

授業科目名： 教育原理		教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）		単位数： 2単位		担当教員名：大沢 裕 担当形態：単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
授業のテーマ及び到達目標							
教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的理論を理解する。教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。							
授業の概要							
教育の理念と意味、教育思想の歴史的変遷(我が国と欧米の場合)、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会における教育のあり方、現代の教育の喫緊の課題などを、特に幼中等教育に視点を合わせて理解させる。この過程を通して、教育に関する基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動における実践原理の体系的な理解を促す。教育現場との関連性を意識しながら教授する。 授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。							
授業計画							
第1回：教育の本質と意義							
第2回：教育の目的・理念							
第3回：家庭教育（家族の教育）							
第4回：学校教育							
第5回：社会教育							
第6回：諸外国の教育思想と歴史（古代）							
第7回：諸外国の教育思想と歴史（中世とルネッサンス期）							
第8回：諸外国の教育思想と歴史（近代）							
第9回：我が国の教育思想と歴史							
第10回：人権教育							
第11回：近代の教育制度・教育法規の基礎							
第12回：教育の内容							
第13回：教育の方法							
第14回：教育実践の様々な取り組み							
第15回：生涯学習と現代の教育課題							
定期試験							
テキスト 『教育の知恵 60 教師・教育者を励まし勇気づける名言集』（大沢裕編著、一藝社）							
参考書 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 その他、必要に応じて授業内で紹介する。							
学生に対する評価 教育者として必須の、教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方が身についているかを、討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。							

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：山本 美紀 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
① 今日の学校教育や教職の社会的意義について、自分の考えを述べることができる。 ② 教職観の変遷を概観し、今日の教員に求められる役割や、資質能力を説明できる。 ③ 教員の職務と義務を理解し、職務遂行のために何が必要かをディスカッションできる。 ④ チーム学校への対応を理解し、家庭・学校・社会との連携の必要性を説明できる。			
授業の概要			
この授業は、教職課程コアカリキュラムの「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）」に基づき、現代社会において教職に求められる資質・能力を身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方について学びます。具体的には、（1）教職の社会的意義、（2）教員の役割、（3）教員の職務内容、（4）チーム学校への対応など教職に関する基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。			
授業計画			
第1回：授業の概要と目的、進め方等について説明する。学校教育と教職の意義について学ぶ。			
第2回：教師の資格と役割、教師を取り巻く課題について学ぶ。			
第3回：教師を育成するシステム（1）明治期から昭和期を中心に学ぶ。			
第4回：教師を育成するシステム（2）平成期を中心に学ぶ。			
第5回：理想とする教師像について学ぶ。			
第6回：教師の専門性について学ぶ。			
第7回：教師の職務の全体像、服務上・身分上の義務について学ぶ。			
第8回：カリキュラムとは何か。カリキュラムづくりの意義について学ぶ。			
第9回：学級づくりと学級担任の仕事について学ぶ。			
第10回：授業づくりと「生きる力」の育成、新学習指導要領について学ぶ。			
第11回：特別支援教育の現状と課題について学ぶ。			
第12回：教師のライフサイクルと教員研修について学ぶ。			
第13回：教師に求められる資質・能力と教員採用試験の動向について学ぶ。			
第14回：教師の勤労の現状と社会が求める力について学ぶ。			
第15回：授業のまとめと振り返りを行う。			
定期試験			
テキスト 吉田武男監修・吉田武男編著『MINERVAはじめて学ぶ教職 教職論』ミネルヴァ書房			
参考書 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。			
学生に対する評価 学習ポートフォリオ(ミツペーパー、レポート課題、振り返り等) 60%、小テスト10%、定期試験30%で総合評価する。※学習ポートフォリオは、ルーブリック(評価基準)による自己評価を含む。			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：深谷野亜 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）		
授業の到達目標及びテーマ			
教師がどのような制度/法律の下でこどもの教育に携わるかの基礎的な知識を理解し、各自が自らの見識を持てることを目的としている。具体的には、以下の5つを理解する。①学校教育に与える社会の影響②制度や法律と学校教育の関わり③学校改善のための取り組み④地域と学校の連携の重要性⑤安心・安全な学校づくりへの取り組み			
授業の概要			
この授業では現代の公教育を支える社会構造を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導き出す姿勢を身につけることを促していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型授業の実現を目指していく。			
授業計画			
第1回：公教育の原理について考える			
第2回：社会変化と学校			
第3回：家族変化と学校			
第4回：社会変化を踏まえ、現代の教育課題を考える			
第5回：諸外国の教育改革と課題を考える			
第6回：我が国の教育政策を考える			
第7回：日本国憲法と教育基本法			
第8回：学校教育法と関連法規			
第9回：教育政策と教育行政			
第10回：チームとしての学校という視点			
第11回：学校経営の仕組みと学校評価（PDCA）の関係性について考える。			
第12回：学校教育における危機管理を事例から考える			
第13回：開かれた学校－地域の教育力の活用－			
第14回：開かれた学校－学校評議員・コミュニティスクール・学社連携への模索－			
第15回：開かれた学校と安心・安全な学校づくり			
定期試験			
テキスト 事前に配付した資料を使用する。			
参考書・参考資料等：高妻紳二郎「新・教育制度論：教育制度を考える15の視点」、ミネルヴァ書房、2014年。その他、授業中に適宜関連図書を紹介する。			
学生に対する評価：授業への取り組み（課題提出や授業態度）を50%、定期試験を50%とし、総合評価を行う。			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：山本 美紀 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
① 心身の発達と発達段階について発達に関する諸理論に関連付けて説明できる。 ② 学習と学習のメカニズムについて学習と教授の諸理論に関連付けて考察できる。 ③ 自ら学ぶ力を身につけるための教育と評価のあり方についてディスカッションできる。 ④ 問題行動や障害について理解し、支援の方法に関する事例を検討することができる。 ⑤ 教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。			
授業の概要			
この授業は、教職課程コアカリキュラムの「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」に基づき、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を学び、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身に付けることを目的とします。具体的には、発達に関する諸理論、学習のメカニズムに関する諸理論を学び、主体的・対話的深い学びを育む教育の在り方について考えます。			
授業計画			
第1回：授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。教育心理学の歴史的背景、学問の体系、方法について学ぶ。			
第2回：発達、発達とは何か、発達を規定する要因について学ぶ。			
第3回：発達段階とライフサイクル（1）幼児期の発達、発達段階について学ぶ。			
第4回：発達段階とライフサイクル（2）児童期の発達、発達理論について学ぶ。			
第5回：発達段階とライフサイクル（3）青年期の発達、ライフサイクル理論について学ぶ。			
第6回：記憶、記憶とは何か、記憶のメカニズムについて学ぶ。			
第7回：学習、学習とは何か、学習のメカニズムについて学ぶ。			
第8回：知能と学力、知能とは何か、学力と教育について学ぶ。			
第9回：動機づけと学習観、動機づけとは、学習観と学習意欲、目標理論について学ぶ。			
第10回：自己調整学習と自ら学ぶ力、自己調整学習とは、自己調整学習の規定要因について学ぶ。			
第11回：学級集団と教師の役割、学級とは何か、教師の役割と学級運営について学ぶ。			
第12回：問題行動の理解と心理的支援、問題行動の理解と心理的支援について学ぶ。			
第13回：障害の理解と特別支援、障害の理解と心理学的アプローチについて学ぶ。			
第14回：教育評価と学習評価、評価とは何か、教育評価の方法と評価基準について学ぶ。			
第15回：授業のまとめと振り返りを行う。			
定期試験			
テキスト 吉田武男監修・濱口佳和編著『MINERVAはじめて学ぶ教職 教育心理学』 ミネルヴァ書房ISBN：978-4-623-081554			
参考書 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。			
学生に対する評価 学習ポートフォリオ（ミニツペーパー、レポート課題、振り返り等）60%、小テスト10%、定期試験30%で総合評価する。※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。			

授業科目名：特別の支援を必要とする生徒の理解	教員の免許状取得のための必修科目（高等学校）	単位数：2単位	担当教員名：菊地 創
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
通常の学級で出会う特別な支援を必要とする児童および生徒の状態像を理解し、教育・発達歴を含めながら個別の教育ニーズを検討し、関連機関と連携しながら、対応・支援するために必要な知識や具体的方法を理解する。			
授業の概要			
心身の成り立ちと発達のプロセスについての理解をもとに、発達上の障害・偏り・養育上の問題などにより、特別の支援を要する児童および生徒の状態像について学ぶ。また、特別支援教育制度の理念や仕組みを学び、様々な事例をもとに、児童・生徒への支援方法や保護者や関係機関との連携方法を検討する。各回テーマに沿ったグループディスカッションとその発表を行う。			
授業計画			
第1回：特別な支援を必要とする生徒の例をあげながら講義の概要を説明する。			
第2回：心身の障害の理解に必要な脳と神経系・感覚器などについて検討する。			
第3回：健診システム・自立支援システム・特別支援教育について検討する。			
第4回：自閉スペクトラム症の特性や心身の発達、教育的ニーズについて検討する。			
第5回：注意欠如多動症、学習障害の特性や心身の発達、教育的ニーズについて検討する。			
第6回：視覚障害のある子どもの特性や心身の発達、教育的ニーズについて検討する。			
第7回：聴覚障害のある子どもの特性や心身の発達、教育的ニーズについて検討する。			
第8回：知的障害のある子どもの特性や心身の発達、教育的ニーズについて検討する。			
第9回：肢体不自由のある子どもの特性や心身の発達、教育的ニーズについて検討する。			
第10回：病弱のある子どもの特性や心身の発達、教育的ニーズについて検討する。			
第11回：社会・成育環境上の問題を抱える子どもの特性や心身の発達、教育的ニーズについて検討する。			
第12回：家庭への対応や支援方法について検討する。			
第13回：効果的な自立活動を行うために必要な個別指導計画について検討する。			
第14回：よりよい社会適応のために必要な個別支援計画について検討する。			
第15回：講義全体のまとめと理解度の確認を行う。			
定期試験			
テキスト 授業プリントと関連資料を提供する。			
参考書 「特別の支援を必要とする子どもへの教育」平澤紀子（編）ジグアイ社			
学生に対する評価 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート等（60％）で総合評価する。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：野川智子
教育課程論	必修科目（高等学校）	2単位	担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）		
授業の到達目標及びテーマ 教育課程の基準である学習指導要領とテキストで、学校教育の内容と方法を示す「教育課程」についての基礎的な知識を獲得し、教育者としての教養を高め、教育課程を自ら編成できることを目的としている。具体的には、①学校教育における教育課程の役割や機能を理解する、②教育課程編成の基本原則を理解した上で、実践的な教育課程や指導案を作成する力を育成する。③学力評価やカリキュラムマネジメントやの重要性を理解する。			
授業の概要 教育課程について、我が国の教育課程の変遷や機能について理解し、担当教員の経験を活かし、現場での具体的な教育活動を教育課程の視点から学んでいく。教員として自ら教育課程を編成できるように、学習指導要領や小・中・高等学校の教育課程などを参考に具体的に指導する。学生が今まで学校で経験してきたことをもとに興味・関心を引き出して、学習意欲を高めるよう授業方法を工夫する。積極的に授業に出席し主体的に授業に取り組むことを目指していく。			
授業計画			
第1回：教育課程とは何か			
第2回：教育課程の編成の意義と教育課程の構造			
第3回：制度としての教育課程に関わる教育行政、日本の学校体系の理解			
第4回：教科書使用義務、教科書検定、教科書採択等教科書問題を討議			
第5回：学習指導要領の位置づけと編成の理解			
第6回：学習指導要領の変遷について改訂の特徴を読み解く			
第7回：計画としての教育課程の内容、作成の手順、編成上の留意点			
第8回：授業者によるカリキュラム（指導案）作成の留意点を理解して、指導案例を読み解く			
第9回：授業実践のための授業形態の種類と活用を理解し、授業を作る技術の実践			
第10回：免許科目別に学習指導案（目標、生徒の活動等）の作成			
第11回：学力のとらえ方、学力評価の変遷から新学力観への理解			
第12回：カリキュラムマネジメントの目的や方法の理解			
第13回：計画と実際の授業のずれの原因と再構築の必要性			
第14回：ヒドウンカリキュラムとして教師が生徒に与える影響を考察			
第15回：教育ニュースまたは目指す教師像について意見交換			
定期試験			
テキスト 『中学校学習指導要領』（最新版）文部科学省、『高等学校学習指導要領』（最新版）文部科学省 『教育課程論』学文社 2018年			
参考書 参考資料、その他の図書は適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業参加状況（課題提出, 小テストを含む）等50%、定期試験50%とし、総合評価する。			

授業科目名：総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目（高等学校）	単位数：2単位	担当教員名： 増田 裕彦 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標： 総合的な学習の時間は、これからの社会において特に必要とされている諸能力を育てる科目です。具体的には、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指します。			
授業の概要： 総合的な学習の時間について、『総合的な学習の時間の学習指導要領 解説』をもとに、基本的な意義や目標、主な内容を押さえ、学校内外の組織的取組について理解できるようにします。また、確認のため課題を出します			
授業計画			
第1回：ガイダンス、総合的な学習の時間について総合的な学習の時間について			
第2回：総合的な学習の時間の目標			
第3回：各学校で定める目標及び内容			
第4回：指導計画の作成に関して配慮すべき点について			
第5回：指導計画の内容の取扱いについて配慮すべき点			
第6回：各学校において定める内容と目標を確認			
第7回：各学校において定める全体計画を確認			
第8回：総合的な時間の年間指導計画及び単元計画の基本			
第9回：総合的な時間の年間指導計画及び単元計画の作成			
第10回：総合的な学習の時間の学習指導「主体的・対話的で深い学び」の理解			
第11回：総合的な学習の時間の学習指導「探求的な学習指導のポイント」			
第12回：総合的な学習の時間の評価			
第13回：総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(1)学習指導や校内組織			
第14回：総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(2)年間授業時数と運用			
第15回：総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり(3) まとめ			
定期試験			
テキスト 文部科学省『総合的な学習編 学習指導要領(平成29年告示)中学校 解説』 『学習指導要領(平成29年告示)第4章総合的な学習の時間特別活動編』			
参考書・参考資料等			
授業時に適宜、指示します。			
学生に対する評価 授業参加状況30% 小テスト・レポート30% 定期試験40%			

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 増田 裕彦 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 生徒会活動や学校行事の意義や目的を理解し、教師の役割を理解できるようになる。			
授業の概要： 特別活動の教育課程における意義や目標を歴史的にも考察しつつ、学習指導要領に基づきホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、部活動等について、生徒が主体的に取り組んでいく指導や支援の視点・あり方、指導法を学ぶ。			
授業計画 第1回： ガイダンス、科目の説明や今まで経験してきた特別活動の振り返り 第2回： 特別活動の歴史について 第3回： 教育的意義について 第4回： 『学習指導要領解説』にみる特別活動の目標について 第5回： 『学習指導要領解説』にみる特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義とは 第6回： 各活動・学校行事の目標と内容 ホームルーム活動(1)目標と内容 第7回： 各活動・学校行事の目標と内容 ホームルーム活動(2)指導計画と内容の取扱い 第8回： 各活動・学校行事の目標と内容 生徒会活動 目標・内容・指導計画・内容の取扱い 第9回： 各活動・学校行事の目標と内容 学校行事 目標・内容・指導計画・内容の取扱い 第10回： 指導計画の作成と内容の取扱い(1)作成に当たっての配慮事項 第11回： 指導計画の作成と内容の取扱い(2)内容の取扱いについての配慮事項 第12回： 年間指導計画の作成 第13回： 作成した年間指導計画の発表 第14回： 部活動やボランティアについて 第15回： まとめ 定期試験			
テキスト 文部科学省『特別活動編学習指導要領(平成29年告示)中学校 解説』 文部科学省『学習指導要領(平成29年告示)第5章特別活動編』 文部科学省ホームページダウンロードしてプリントアウト又は購入)			
参考書・参考資料等：『特別活動・総合的な学習の理論と指導法』関川悦雄・今泉朝雄編 弘文堂			
学生に対する評価： 授業参加状況30% 小テスト・レポート30% 定期試験40%			

授業科目名：教育方法論（情報通信技術の活用含む）	教員の免許状取得のための必修科目（高等学校）	単位数：2単位	担当教員名：山本 美紀 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 教育の方法及び技術 ・ 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
① 社会的背景の変化や技術の発展における教育方法の理論及び方法を概観し、教育とは何か自分の考えを述べることができる。 ② 指導と評価の一体化について理解し、学習意欲を高める授業を企画できる。 ③ インストラクショナルデザインの考え方を理解し、ICT（情報通信技術）を活用した授業設計、学習指導案および教材等を開発できる。 ④ ICTを効果的に活用し、模擬授業を行うことができる。 ⑤ 教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。			
授業の概要			
この授業は、教職課程コアカリキュラムの「教育の方法及び技術」及び「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に基づき、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、(1)教育の方法論、(2)教育の技術、(3)情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。具体的には、教育方法の基礎的理論と実践を学び、教育の目的に適した指導技術を身に付けます。さらに、ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について考え、児童及び生徒に情報活用能力、情報モラルを育成するための指導法を身に付けます。			
授業計画			
第1回：授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。教育方法論の歴史的背景、学問の体系、方法について学ぶ。 第2回：教育の方法と技術に関する理論、最近の動向、ICT（情報通信技術）を活用した事例について学ぶ。 第3回：学力とカリキュラム・教育課程について学ぶ。 第4回：インストラクショナルデザインと ICT の活用（1）教材・教具、板書とデジタルコンテンツについて学ぶ。 第5回：インストラクショナルデザインと ICT の活用（2）メーカーの3つの質問、到達目標について学ぶ。 第6回：インストラクショナルデザインと ICT の活用（3）評価方法と評価基準について学ぶ。 第7回：インストラクショナルデザインと ICT の活用（4）授業方略と課題分析について学ぶ。 第8回：インストラクショナルデザインと ICT の活用（5）学習指導とファシリテーションについて学ぶ。 第9回：学習環境デザイン（1）対面授業とアクティブラーニングについて実践的に学ぶ。 第10回：学習環境デザイン（2）オンライン授業とハイブリッド授業について実践的に学ぶ。 第11回：ICT の活用、情報教育と情報モラル教育の指導法について学ぶ。 第12回：教育評価と教育データ（学習履歴、ポートフォリオ）について学ぶ。 第13回：ICT の活用と学びを深める授業研究模擬授業を行う。 第14回：ICT の活用と学びを深める授業研究模擬授業（続き）と模擬授業の振り返りを行う。			

第15回：まとめと学びの振り返りを行う。これからの教育の方法及び技術の展望について考える。

定期試験は実施しない。

テキスト 指定しない。必要に応じて授業内で資料等を配布する。

参考書 文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)』その他、必要に応じて授業内で紹介する。

学生に対する評価 学習ポートフォリオ(ミツパーパー、レポート課題、学習指導案、振り返り等)：60%、小テスト：10%、模擬授業(発表)：30%で総合評価する。※学習ポートフォリオは、ルーブリック(評価基準)による自己評価を含む。

授業科目名：生徒・進路指導論		教員の免許状取得のための必修科目（高等学校）	単位数：2単位	担当教員名：山本 美紀
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等		・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
① 生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理について、説明できる。				
② 全ての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方及び進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を例示することができる。				
③ 個別の課題を抱える個々の生徒への指導の在り方を例示することができる。				
授業の概要				
この授業では、他の教職員や関係機関と連携しながら教育活動全体を通して組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的耐性に必要な知識や素養を身に付けることを目的とする。				
授業計画				
第1回：授業の概要等について説明する。生徒指導・進路指導の意義と目的について学ぶ。				
第2回：生徒指導、生活指導の歴史と変遷について学ぶ。				
第3回：現代の社会・家庭と子どもの生きづらさについて学ぶ。				
第4回：子どもたちの発達課題と生徒指導について学ぶ。				
第5回：子どもの理解と教師の指導・支援について学ぶ。				
第6回：チームで対応する生徒指導について学ぶ。				
第7回：人格形成と生活指導・生徒指導について学ぶ。				
第8回：進路指導・キャリア教育の歴史と変遷について学ぶ。				
第9回：児童生徒の自己形成と進路指導・キャリア教育について学ぶ。				
第10回：配慮を必要とする生徒指導①「いじめ・暴力行為」の指導・支援				
第11回：配慮を必要とする生徒指導②「不登校・ひきこもり」の指導・支援				
第12回：配慮を必要とする生徒指導③「発達障害とその周辺の子ども」の指導・支援				
第13回：配慮を必要とする生徒指導④「グローバル化の進行と子どもたち」の指導・支援				
第14回：配慮を必要とする生徒指導⑤「携帯・スマホ・ネット問題」の指導・支援				
第15回：授業のまとめと振り返りを行う。				
定期試験				
テキスト 原清治／春日井敏之／篠原正典／森田真樹監修 春日井敏之／山岡雅博編著『新しい教職教育講座 教職教育編11 生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房				
参考書 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。				
学生に対する評価 学習ポートフォリオ(ミニツッパーパー、レポート課題、振り返り等) 60%、小テスト10%、定期試験30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルブリック(評価基準)による自己評価を含む。				

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：菊地 創
教育相談	必修科目（高等学校）	2単位	担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校での教育相談に関して、基礎となる知識、技法について、具体例を通して習得する。教育相談の技法についてのグループワーク等を行いながら受講生自身の自己理解を高める。			
授業の概要			
学校現場で生徒や保護者を理解し適切に支援するには、教師自身が自分がどのような人間であるかを理解しておくことは重要である。本講義では学校における教育相談の意義を学び、教師であることの意味を考える。さらに教育相談に用いるカウンセリングの基礎について、講義や動画および演習を通して教師としての基本技法を体験的に学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：教師になることの意味を考える。ディスカッションと発表を行う。			
第2回：コミュニケーション能力、対人関係、自らのキャリアを考える。ディスカッションと発表を行う。			
第3回：教育相談の意義や学習指導要領、チーム学校について検討を行う。 ディスカッションと発表を行う。			
第4回：カウンセラーの基本的態度について検討を行う。ディスカッションと発表を行う。			
第5回：カウンセラーの相談技法の基礎について検討を行う。ディスカッションと発表を行う。			
第6回：相談技法の演習①：傾聴の姿勢と態度についてグループワークを通して体験的に学ぶ。			
第7回：相談技法の演習②：他者への共感的理解とリソース探しについてグループワークを通して体験的に学ぶ。			
第8回：学校におけるストレスマネジメント教育について検討を行う。ストレスマネジメント技法を体験し、グループで話し合う。			
第9回：キャリア教育とキャリアカウンセリングについて検討を行う。グループワークと発表を行う。			
第10回：教師がカウンセリングを行うことの意義と基礎的ポイントについて検討を行う。ディスカッションと発表を行う。			
第11回：不登校、自殺ほかについて動画資料などを通して検討を行う。グループワークと発表を行う。			
第12回：いじめ、非行ほかの対応方法について動画資料などを通して検討を行う。 グループワークと発表を行う。			
第13回：発達障害、虐待ほかの対応方法について動画資料などを通して検討を行う。 グループワークと発表を行う。			
第14回：保護者への対応について検討を行う。グループワークと発表を行う。			
第15回：スクールカウンセラーや学校内外との連携について検討を行う。グループワークと発表を行う。			
テキスト	授業プリントと関連資料の提供。		
参考書	講義内で適宜紹介する。		
学生に対する評価 評価基準：授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(60%)で総合評価する。			

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名：山本美紀 大沢裕 深谷野亜	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 10～20 人					
教員の連携・協力体制 オムニバス形式にて行う					
授業概要：教職課程の仕上げの授業にあたる。大学4年間で学んだことと教職実習での経験を整理・統合し、教員としての資質の向上を図る者である。授業形態としては講義を減らし討議や発表、現場見学を組み合わせ、実際の教職現場を想定した実践形式での授業を行っていく。					
授業の概要：教師として必要な資質を各自が確認し、実践的な指導力を有する教員としての資質向上に務める。具体的な目標としては以下の4点である。 ①教師としての指名感や責任感を待ち、子どもに対する愛情が豊かであるか。②教師として必要な社会性や対人間関係能力を身につけている。③生徒理解や学級運営について、必要な基礎的な能力を身につけているか。④教科内容の基礎的な指導力を身につけているか。					
授業計画 第1回：これまでの学習の振り返りについて（深谷） 第2回：学級経営について I（学級経営の目的・内容と学級担当としての役割）（山本） 第3回：教育相談の方法（深谷） 第4回：教職の意義・教員の役割（大沢） 第5回：GIGAスクール構想とICT教育について考える（山本） 第6回：ICT活用指導力について考える（山本） 第7回：いじめ理解について（大沢） 第8回：子ども理解の方法（大沢） 第9回：学校現場の見学I(森の里中学校)（見学と中学校教員とのディスカッション）（山本） 第10回：学校現場の見学II(森の里中学校)（見学の反省・振り返り）（山本） 第11回：模擬授業（受講者の前半グループの実施）（深谷） 第12回：模擬授業（受講者の前半グループの実施）（深谷） 第13回：指導力のある教師（大沢） 第14回：保護者対応（深谷）（大沢） 第15回：教師のコミュニケーション力（深谷）					
テキスト 文部科学省最新版『高等学校学習指導要領』					
参考書・参考資料等 必要に応じて授業時間内に紹介する。					
学生に対する評価：到達目標が達成できたかを評価する 業参加状況等（40％）、小テスト・レポート等（10％）、授業内試験（50％）等で総合評価する					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。